

平成27年度第1回南三陸町環境審議会 会議録

1 日時 平成28年3月28日(月) 午後1時から午後2時15分まで

2 場所 ベイサイドアリーナ文化交流ホール

3 出席者

(1) 南三陸町環境審議会委員(11名)

鈴木卓也委員、佐藤太一委員、小野寺寛委員、宮城英徳委員、五十嵐亨委員、高橋長晴委員、阿部司委員、佐藤俊光委員、齋藤左恵子委員、小野政道委員、西城幸江委員

(2) 南三陸町環境対策課

小山雅彦、星力、山内香、齊藤剛、佐々木良輔

(3) 関係職員

産業振興課水産業振興係 係長 阿部靖、農林業振興係 係長 高橋伸彦
下水道事業所所長 及川明

(4) 欠席者(4名)

高橋一郎委員、及川吉則委員、山内敏裕委員、工藤真弓委員

(5) 傍聴者

なし

4 事務局あいさつ

5 会長あいさつ

6 会議成立の確認

南三陸町環境基本条例第28条第2項の規定により、委員の過半数が出席していることから会議が成立することを確認。

7 審議事項

(1) 環境基本計画における「目指すべき環境像」(案)について

①平成27年度南三陸町環境審議会資料1ページ目を事務局より説明。

②質疑応答

(鈴木委員) サブタイトルの中に「変わらない」とあるが環境は変わるものであり、現在の状況が変わらないとなると発展がないということになる。将来像として「変わらない」という言葉は適さないと思われる。

(事務局) 策定委員会では、「変わらない」については、漁業や林業などを「世代に伝えていく」という意味で話し合いをした。

- (小野寺委員) 「変わらない」という言葉に違和感がある。震災で変わってしまった自然環境をよくしたいというような気持ちが環境計画で表されてほしい。
- (佐藤太一委員) 「変わらない」という言葉を削除してはどうか。
- (鈴木委員) 町のシンボルとなっている生物が現在の環境が変わっても生き続けられるというメッセージがあると環境像の「変わらない」を生かせるのではないか。また、環境像の「創ろう」という言葉もあるが、「変わらない」という言葉と整合性を取る必要があるのではないか。
- (事務局) 次回の策定委員会で文言の変更あるいは削除を検討する。
- (阿部委員) 環境像の「海・川・山」を「自然」と省略して「自然・人・町」としてはどうか。
- (佐藤太一委員) 南三陸町は、海・川・山が密接に関わりあっている町なので、ここは明確にしておいた方がよいと思う。
- (事務局) 「海・川・山・人」を「まちの魅力に」と表現している。「まち」というひらがなで、町全体の魅力に誇りをもって子どもたちに伝えようと考えた。
- (佐藤太一委員) 総合計画の将来像の「里」という言葉を入れ、整合性を取った方がよいのではないか。
- (佐藤俊光委員) 「里」という文言については、総合計画との整合性はとらなくてよいのではないか。
- (高橋会長) 今話していただいた内容を次回の策定委員会で検討してもらうこととする。

(2) 南三陸町環境基本計画施策体系(案)について

①平成27年度南三陸町環境審議会資料2ページ、3ページを事務局より説明。

②質疑応答

- (鈴木委員) 町のシンボルになっている生き物が生き続けられるような町の環境を目指すところで位置づけるのがいいのではないか。生き物を守ることが町の環境を守り、町の産業を守ることにつながる。町のシンボルとなっている生き物と環境政策とは親和性が高い。
- (高橋会長) 町のシンボルである動物、植物については、私も同感である。明確に文字として加えることとしたい。
- (西城委員) 配布資料の中で、事業内容と基本政策からどうなれば、どういう成果に繋がるのかを明確に示した方がよいのではないか。
- (事務局) 今回の配布資料がそのまま環境計画になるわけではない。策定の途中であるので今後皆さんの意見を町の施策にどう反映させていくかを文言としてまとめ冊子を作成する予定である。
- (宮城委員) 震災前にあった、ネイチャーセンターのような施設を復旧させて、環境教育に活用するのはどうか。

- (鈴木委員) 自然環境活用センター、海兵高度利用センターがあった。自然環境活用センターは復旧する計画がある。
- (事務局) 環境基本計画には、環境教育、人材教育の項目を挙げており、復旧した施設の活用を考えている。
- (小野寺委員) 町の全体計画と整合性が取れるように進めていくべくではないか。
- (宮城委員) 以前、磯やけ現象について報道があった。漁場環境の保全のなかに、磯やけ防止を含めた海藻の再生については入っているのか。
- (佐藤俊光委員) 再生支援事業の中に含まれているのではないか。
- (水産業振興係) 含まれている。磯やけ対策の事業としては、海草群落を再生する調査事業や、増えすぎたウニを間引いて堆肥化して農業利用をする試験事業を行っている。
- (佐藤太一委員) 実施計画事業の中に FSC 認証事業は入っているが、ASC がない。ASC について実施計画事業に加えなくてもよいのか。
- (水産業振興係) 漁協の志津川支所の役員会で ASC を申請したが、未だに取得に到っていないことや、町自体が取得することではないことから記載していない。町はブランディングの支援の計画をしている。
- (事務局) 現時点で ASC の取得が決定していないため記載していない。今後 ASC 取得が決定した後は町が具体的な計画を検討する。
- (宮城委員) 循環型社会形成推進の部分に、研修事業、PR、見学とあるが、環境教育の部分との整理が必要なのではないか。
- (事務局) 分野が重複する事業は主となる方に掲載したが、今後関連性を踏まえて整理する。
- (五十嵐委員) 事業所を対象とする事業は何かあるのか。
- (事務局) バイオガス事業のための生ごみ回収を事業系のホテルや民宿、食堂の生ごみに拡大する計画がある。
- (佐藤太一委員) 山での生物調査は行われているのか。FSC の年次審査で生物調査を行う必要がある。町として調査事業を検討してはどうか。また、防潮堤の築造による環境影響について調査が必要なのではないか。
- (事務局) 山の生態系の調査は市町村の個別事業ではない。環境基本計画の作成において必要な資料は国の報告資料等を参考にしている。町の道路状況は変わってきているので、今後状況が落ち着いて、計画を見直す時点で、生態系の調査を行う可能性はある。
- (佐藤太一委員) 年次審査の時森林管理協議会で調査するということか。
- (事務局) 今は環境の変化が大きいので、いずれ落ち着いた段階で環境についての調査を行う必要があると考えている。防潮堤には、環境アセスは必要ない。
- (鈴木委員) 環境審議会で議論をするための基礎資料となるような、モニタリング的な継続的な調査をした方がよいのではないか。

(高橋会長) 本日の意見は次の策定委員会で検討することとする。基本的な部分については賛成多数で、原案のとおりとする。

(3) その他

(宮城委員) アンケート調査については、住民の意識を把握する重要なスタートラインなので、施策を実施しながら定期的に行うのがよいのではないか。

8 閉会